

# B型肝炎

GROUP15

1

## B型肝炎患者の気持ち

- 職業をやめなければならない
- 歯科医院で椅子にビニールシートを敷かれた
- 検査の時に毎回発症していないか恐怖心を常に持っている
- 医療費がかかる
- 自分だけでなく家族にも迷惑をかけているのではないかと

2

## B型肝炎患者の差別を受けている場所は病院が多い

- 実際の事例
  - 罹患者であることを理由とする診察拒否
  - 感染防止の標準予防策として合理的ではあるものもあるが、明らかに方法・様態が必要以上に過度なものがあった
  - 治療を後回しにされた
  - 肝炎患者であることをまわりに聞こえるような大きな声で言われた
  - カルテ記載を他の人から見えるような取り扱いをされた

**医療従事者が正しい知識を持つことが重要**

3

## 医療従事者としてすべきこと

- 患者に病気について十分な説明、患者の理解・納得
  - 患者の処置の対応の区別を差別と感じにくくなる
- 寄り添う看護
  - 患者のプライバシーへの配慮
  - 患者の家族のケア
  - 肝炎患者とそうでない患者との差との対応を明らかにしすぎない
  - 偏見や差別を経験した患者の理解

→ 患者のストレス、悩みを解消 など

4

## まとめ

- 医療従事者として正しい知識を持つべき
- 病原体と向き合うのではなく、患者と向き合うべき
- 効率性や経済性で患者を危険な目に合わせてはならない

危険な行為(注射器の使いまわし)に声を上げ続けていればこんな事態にはならなかった...

5



## 薬害B型肝炎 Grop 6

1

## 患者さんの葛藤

- 健康のためにワクチンを打ったのに、それで一生を左右される病気になるなんて
- 注射器の使いまわしという自分ではどうにもできないことが原因で一生苦しむ続ける
- 集団接種が原因で感染したのにあることないことで噂になる
- 裁判で勝っても体は治らない
- 政府が悪いのに、誰か(前に並んでいた人)のせいにしてしまう



2

## 差別を受ける場所

- 差別を受ける場所として、B型肝炎患者が助けられるべき医療機関が多く挙げられていることを知り、悲しく感じた。
- 一番差別を感じる場所が医療機関だというのがとても悲しいことだと思った
- 病気だけでもつらいのに歯医者で後回し、診察拒否などの差別がある



3

## 患者さんに寄り添う

- 病気に向かうのではなく病人、とくに病人の気持ちにより寄り添って治療を展開していく必要がある。
- 「激痛でも患者に寄り添うと案になる」というのが印象に残った。



4

## 患者さんに寄り添う

「立ち向かうべきはウイルスであり、感染した人ではない」  
「病気に向き合うのではなく、病気になった人に向き合ってほしい」



5

## 正しい知識が大事

- 医療現場で特に差別を感じる人が多く、医療人でも正しい知識を持っていない現実。
- 差別や偏見で患者と接することはあってはならないことであり、医療の専門知識をもつて正しい知識を用いて看護しなければいけない。
- 正しい情報を知らないことは差別につながるので恐ろしい。患者に寄り添うためにも正しい知識は大切だ。
- 体液が触れると感染してしまうのが原因で差別や偏見が起こりやすい。
- ワクチンを接種すれば感染しないという正しい情報をもっとひろ広めるべき。
- どのような行為で感染するのかということについての正しい知識を広めることが重要だ。



6

## 正しい知識が大事

差別や偏見を防ぐために正しい知識、正しい情報が大事！



7

## 標準予防策(スタンダードプリコーション)

標準予防策 (スタンダードプリコーション)

感染症の有無に関わらずすべての患者に適用される、患者の血液、体液、分泌物、排泄物、あるいは傷のある皮膚や、粘膜を感染の可能性のある物質とみなすことで、患者と医療従事者双方における病院感染の危険性を減少させる予防策。



8

## 標準予防策(スタンダードプリコーション)

- 昔は今と違い医療環境が十分ではなかったため感染が蔓延したので衛生を整えることはとても大事だと分かった。
- スタンダードプリコーションの重要性が分かった。(スタンダードプリコーションは大切だ。)
- 標準予防策について気をつけている医師・看護師が少なく、認識を改める必要があると思った。



9

## まとめ



- 今回B型肝炎についてのお話を聞き、患者さんの苦悩を知った。将来医療者として働く私たちは、B型肝炎についての正しい知識を持って接していかなければいけないと感じた。
- これ以上B型肝炎になる人が増えないように、そして誰も傷つかないように、医療従事者としてスタンダードプリコーションを実践していくことがとても重要だと思う。

10

受講日	学部	本日の講義に関する質問・感想等を記入してください。
5/18/2021	医学部	全盲で生活をするは大変であることは理解しているつもりでしたが、今回の講義でリアルな話を聞くことが出来、想像以上の大変さに驚愕しました。最近では便利な世の中になったなあとばかり思っていたのですが、ドアのボタン化などは不自由になるんだなあと感じました。まだ出会ったことはないのですが、これから街中で白い杖を持っている人がいたら、率先して声をかけたいと思います。貴重なお話ありがとうございました。
5/18/2021	医学部	街中で障がいをもつ方を見かけたら、自分から積極的に声をかけようと思いました。
5/18/2021	保健看護学部	私が通っていた高校の隣には盲学校と聾学校があり、週に2日程度一緒に部活をしていました。私はマネージャーをしていたので、盲学校と聾学校の人達にとって練習しやすいよう工夫して居ましたが、どのような悩みがあるのかは聞きにくく分かりませんでした。今回の先生の講義で、どのようなことが悩みであるかが分かって良かったです。また、先生は目が見えないというハンデはありますが、自分で自分の道を切り開いていって凄いなと思いました。将来は看護師として、先生のようなハンデを抱えていても自分の道を切り開こうとする人々に対して、何か援助をしていきたいと思いました。
5/18/2021	薬学部	盲目の方のすごさだけでなく、助け合いの重要さも学ぶことができました。
5/18/2021	医学部	全盲の人がどのように生活を送っているのかを聞いて、体の全身を使って目の見えないことを補っているのと知った。また目が見えなくても医療関係に携わることができているということに感銘を受けた。
5/18/2021	医学部	東西南北をどうやって見分けているのか不思議に思いました。
5/18/2021	医学部	目の見えない方の中にも、色は分かる人、分からない人など、それぞれ症状が違うことが分かった。また、バスの中で空いている席が分からないというのは、すごくなるほど思ったので、目が見えない方に出会ったら勇気をだして声をかけられるようになりたいと思いました。
5/18/2021	薬学部	盲目の方が日常生活のどのようなところで苦労しているのかがよくわかり、ほんの少しの声掛けがどれほど大切なのかを知ることができました。 みんなができることで自分だけできないのはすごく孤独であるというのが自分とは全然悩みのレベルが違いますが、理解できるような気がしました。これからの日常生活では、困っている人に積極的に声をかけたいと思います。
5/18/2021	医学部	視力の徐々な低下には気づきましたか(昨日や先月、去年よりも視界が悪い、とか)。視覚障害があっても医療に従事できるとは驚いた。
5/18/2021	医学部	障がい者本人がどう思っているのかを直接聞ける機会ができて本当に感謝しています。
5/18/2021	薬学部	視覚障がい、先天性の方に多く見られる。と自分の中では思っていました。しかし、後天性の場合が多いことを初めて知りました。正直な所、目が見えない方のつらさは、他人の怪我の痛みが自分には分からないのと同様に、完全に理解する事は出来ません。だとしても、私は通学の途中そのような方がいらしたら、微力ながら適切に手助けしていきたい、と改めて思いました。本日はお話しして頂いて、とても有難うございました。
5/18/2021	保健看護学部	視覚障害のある医師の方がいらっしゃるということを初めて知りました。実際白杖を持っている方に出会っても、自分でできるから助けはいられないと思っている方もいるというのをテレビで見て、なかなか声をかける勇気が出なかったのですが、次は声をかけて見ようと思います。
5/18/2021	薬学部	今回の講義中にマスクをしたことで平衡感覚が狂う感じがしたのですが、盲目の方はそのように感じることはあるのか疑問に感じました。白杖をついている人が困っているように見えなくても話しかけていいのかどうか、迷うことがあります。どのように接すればいいのかわからないことだらけなので、これからたくさん勉強していきたいと思いました。
5/18/2021	薬学部	今日は貴重な話を聞かせていただきありがとうございました。視覚障害のある方を含めて障害のある方に対して彼らと同じ目線で考えることが大切であると感じました。
5/18/2021	医学部	全盲で医師として働いている人がいらっしゃることを知らなかったのが驚きました。目に病気をもちながらもあきらめずに将来に希望を抱いて前向きに挑み続けている姿に感動しました。障がいを持っている人に対する考え方が一層深まりました。
5/18/2021	薬学部	視覚障害の方の世界は私にとっては未知の世界でしたが、今回の講義を聞いて視覚障害の方でもできる社会になればいいなと驚きがあり、先生の前向きな生き方に感銘を受けました。やはり、未知の世界であるためアイマスクで長時間目が見えない状態が続くと家において、座っているだけなのに怖さや不安を感じアイマスクを早く取りたいという思いになってしまいました。また、普段と違って視覚からの情報が少ない分集中して聞かないといけなく、自分がいかに視覚からの情報に頼っているかを実感しました。
5/18/2021	保健看護学部	私の知り合いにも全盲で教職をしている方がいるので、今日の講義で知っている目が見えない人用の器械がいくつか出てきました。よりそれらの器械が発達して、どんな障がいを持っていてもスムーズに暮らすことや働くことのできる社会になればいいなと思いました。また、目隠しをすることで目が見えることのありがたみが分かり、先生の話を聞いて目が見えない生活の大変さが分かったので、これからも困っている人がいれば勇気を出して声をかけてみようと思いました。貴重なお話ありがとうございました。
5/18/2021	薬学部	目が見えづらくなっても色々なことに挑戦し続けてきた*先生を見習って、私も挑戦する前に迷うことをせずに挑んでいきたいと思った。また*先生が街中でたくさんの人に助けてもらったエピソードを聞いて、私も困っている人の手助けを自分からできるように改めて心がけていきたい。
5/18/2021	医学部	私たちは障害を持つ人に何かしら特別なことをしなければならなかったと思っていたが、すこしの手助けや声かけで救われるという言葉が一番心に残りました。また、2001年まで医師法などにおいて欠格事項があったのも気になりました。何がきっかけでその改善が行われたのか質問すればよかったです、、、
5/18/2021	保健看護学部	目が見えない、見えにくい世界というのは私自身は不自由だと感じた。しかし、その分他の感覚が敏感になり、できる限りの情報を拾おうとすることが理解できた。私はアイマスクを装着することで、聴覚が敏感になることを感じる事ができた。看護師になるにつれて、このような目の不自由な人や車椅子に乗っている人と触れ合う機会が増えていくと推測できるので、より理解を深めていくべきだと思った。
5/18/2021	医学部	マスクをして話を聞くと、いつも授業を受けているときに感じないことが感じたと思います。例えば、いつもより耳に集中して、いつもは感じないパソコンの「ジージー」というような音が聞こえてきたりしました。今日のお話で今まで知らなかったいろいろなことを学べました。
5/18/2021	薬学部	特急のトイレの扉の開閉が無音なのは、一般の人にとっては静かでプラスなことだが、全盲の人にとってはそれがマイナスであるというずれ違いのようなものが生じているのだな、と思いました。また、人の役に立てるということは大事、という言葉にとっても共感しました。 話し合いで出たのは、洋服をクローゼットから選ぶときはどうしているのだろうか、というのが挙がりました。どうされているのですか？
5/18/2021	薬学部	少し移動するだけでもたくさんの壁があることがわかりました。特に驚いたことは音のない交差点では自動車の音を聞いて青信号かどうかを判断しているという話でした。私は高校通学の電車の中で全盲の方がいられたのですが、周りを気にしてなかなか声をかけられませんでした。今回、先生がおっしゃった「一言が移動の助けになる」という言葉を聞いて私の行動を反省し、後悔しました。これからは一言かけるところから頑張っていきたいです。
5/18/2021	薬学部	視覚障害者の方に町中で出会ったときに声をかけるか迷ったことがありました。しかし、今日のお話を聞いてもっと積極的に声をかけていいんだと思いました。また、目が見えないことは大変だとは思っていましたが、改めて考えてみると、日常生活のいろいろなところで不便さが出てくるなと感じました。今回のお話を聞いて、視覚障害についてもう一度考え直すいい機会になりました。
5/18/2021	薬学部	この講義に参加する前に、心理学の授業で視覚について学習しました。この時に、視覚で得られる情報は全体の8割を占めることを知りました。それらを知った上でアイマスクをつけた状態で講義を受けて、私は視覚がどれだけ情報を伝達しているのかを痛感しました。また、先生のおっしゃる通り、自分だけ別の場所にいるという感覚も感じました。今日の講義で分かったことを今後の視覚障害者との接し方・支援の参考としていきたいと思いました。